

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503692		
法人名	有限会社マネジメントコンサルタント		
事業所名	エンゼルホーム北野		
所在地	札幌市清田区北野4条4丁目25-10		
自己評価作成日	平成28年11月10日	評価結果市町村受理日	平成29年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・エンゼルホーム北野運営理念である、その人らしい、笑顔あふれる、自由と安らぎの感じる暮らしの様に、日々、小さな里山の自然林の中で暮らしています。・束縛なく、自由に、気ままな時間が経過する生活を送っております。・外で作業したい人、散歩したい人、時間にこだわらず生活するホームです。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170503692-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年12月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1)ホームの環境：厚別川沿いのミズナラの並木に包まれた閑静な住宅街にあって、2階建ての建物は前庭が広く、外気浴や四季の変化を楽しみ、畑作業もできる環境にある。
- 2)職員の態度・研修：当面の留意重点事項を会議スペースに掲出。代表と共に定例会議で意見を交わし、居室担当の意見や方針を共有した連携体制で相互の士気の向上を図っている。
- 3)利用者や家族の満足：家族アンケートの評価は高く、利用者家族の満足度の向上に職員全体が努めている。
- 4)運営推進会議の開催状況：定例に民生委員、連合町内会役員、包括支援センター、代表・職員が参加して、活動状況を詳細に報告して、参加者の意見を運営に活かしている。
- 5)地域関係者との連携：地主に協力、連町関係役員、土砂防災の地域防災計画の合意地域との連携を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常業務の中で、理念実践の努力をしている。	職員は「その人らしい笑顔、自由、安らぎが感じられ、地域交流を大切にして社会との交わりある暮らしをゆったり、穏やかに、互いを思いやる生活の支援に努める」との理念を共有し、実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事への参加(できる限り)運営推進会議への参加のお願い等	ホームを開設して10年近くになり、地域に身近な存在として親しまれている。特に古木の並木に恵まれ、地主の支援もあり、畑作業を通じた楽しみや地域行事との交流を大切にしている。	事業所の認知症介護の専門性を、さらに地域の力として活かされるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かされてはいないと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議を行っている。報告、話し合いを行っている。	会議は定例に開催。利用者の介護状況、行事・レク等の活動状況の報告、また、日本認知症グループホーム協会の調査結果を紹介し、ホーム運営の実態の周知と意見を聴取して、運営に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者、地域包括担当者とは、普段から連絡を取り合っている。	定例の業務報告の際、窓口での情報交換や地域包括支援センターの助言等を運営に活かしている。また、同区のグループホーム交流会では利用者の作品コンテストで賞を得るなど、日頃の努力を紹介する機会等を活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表と職員全員が、身体拘束禁止という事を理解している。夜間の外玄関の施錠は、防犯上行っている。	職員はサービス指定基準を相互に研修し、対応事例には家族への報告と承諾の手続き等を確認するなど、適切なサービスに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、普段から高い意識を持って接している。又、互いに注意できる関係にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところは、学ぶ機会も少なく活用もあまりされていないように思える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、十分な説明を行い納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いている。又、直接意見が言える関係性に努めている。	意見箱は自由にコメントを投入できる場に備えている。家族が訪問の際には、平素の生活状態を伝え、家族の意向の聴き、親しく利用者との交流を支援できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見交換がしやすい職場作りを心掛けている。月に一度の会議でも意見交換ができる。	職員会議、カンファレンス会議は代表者も参加のもと、定例に開催し、居室担当の観察状況の報告、各職位の専門的意向や意見を述べて、相互の連携の強化に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り努めている。キャリア形成、キャリアアップも適時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修条件整う社員には、実践者研修へ参加していただき認知症の全体把握を行っていただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者には、適時研修等で交流機会を作りたいが、なかなか時間的制約でできていないのが、現状である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で、本人の求めている事を理解するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めている事を理解し、しっかり向き合ってお話をさせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	往診、訪問、理美容、歯科等のサービスも提供している。本人の希望も取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長い人生経験から学ぶことも多く、互いに支え合える関係作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子を細かく伝え、情報の共有に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話やハガキ等のやり取り、外出等も含め家族とも協力しながら支援している。	主たる家族との関係を大切に、訪問時の居心地のよい交流環境づくりに心がけている。また、家族の協力を得た外出や電話・手紙の支援などに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で日光浴をしたり、行事参加等で共有できる場を提供し関わり合える様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	不安や心配事があった時は、いつでも連絡いただき相談に応じている。他の機関への協力もお願いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の希望、気持ち等を把握しその人らしい生活が送れるように努めている。	意向等の把握については、アセスメントでの心身の状況、日常生活での様子、嗜好を職員相互で共有し、家族との交流を通じ、個々の利用者の思いや意向を確認し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族にお話しを伺っている。本人からも会話の中から把握出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌、申し送り等で現状の把握に努めている。ケアカンファレンスも行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人と話し合い、介護計画を作成、カンファレンスの中で話し合う事もある。	訪問看護の週2回の看護記録、居室担当、定例のカンファレンス会議の情報協議等を立案し、計画者を軸にまとめ、家族や本人の承諾を得て作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等、細かく介護記録に残し介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は、リクレーションの読み聞かせならびに医療的にマッサージを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の往診を実施。他の病院への受診、送迎等も行っている。	医療体制については、週2度の訪問看護の訪問に基づき、実情を共有している。また、基本的に個々のかかりつけ病院での診療には、職員が支援にあたっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で訪問看護師と連絡、報告をして情報の共有、適切な受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーと、日々連絡を取り情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際には、事業所方針を明確にし職員、家族と共有している。	重度化や終末期の対応については、重度化指針に基づき、訪問看護、協力病院との連携体制を整え、家族と協議して具体的対応を図っている。看取りの経験もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常的な訓練は、行っていないが応急手当等マニュアル化して職員で話合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を職員、利用者にも参加してもらい行っている。	年間計画に基づく火災等の想定訓練の実施、土砂災害の発生には東北野地区と協議して、町内会館の解放等役割分担が整えられている。また備蓄品等の備えもある。	近年の災害は想定し難いことが多く、地域防災の観点から、今後も関係機関との一層の連携を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	安全な暮らしと尊厳を大切にしながら日々が守られるよう声掛け対応に努めている。	職員は、人権の尊重、虐待の態様、拘束禁止等と合わせて、個々の日常の個性や誇り、思いを忖度した対応ができるよう言葉・態度に留意して臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い、希望が表現しやすい環境作りと、話し合える場、時間が持てる様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の思い、希望に出来るだけ添えられ快適に過ごせる様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の中で、本人の希望に添える様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好み、形状等出来る限り合うように心掛けています。準備、片付けに関しては、今は無理な状況である。	個々の食事の嗜好、心身の状態に応じた食事の提供に努め、調理の内容や方法に配慮している。個々の生活状態に合わせて、準備や片付けを含め、楽しい食事の時間を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に水分量を記入。職員全員で把握。状態によっては、メニューを変更し好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方は、ご自分で歯磨きをして頂く。出来ない方は、介助でケアしている。訪問歯科も利用。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレへの声掛けも行っている。チェック表にも記入。	職員は個々の日常の生活状況や食事等の状態を把握し、排泄パターンを共有し、さりげなく促している。出来るだけ自力で排泄できるよう、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操への参加、便通の良くなる飲み物等の提供、かかりつけの医師からの便秘薬の処方。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に添うように声掛けをしている。汚染等がある場合は、さりげなく声掛けし、入浴して頂く事もある。	入浴支援は個々の心身の状況を捉え、意向を聞きながら促して楽しい入浴となるように個別に声かけをし、状況に合わせた支援をすすめている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境を整え、安心して休んで頂けるよう、心掛ける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で個々の服用している薬の把握、理解に努めている。送り等でも把握。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力に合わせて声掛けを行っている。行いたいが出来なくなってきたのも現状である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や日光浴等、その日に合わせて声掛けや支援を行っている。年間行事計画を立て近くにお花見、買い物等出掛けている。	ホームは厚別川の川岸流域のやや高台にあって、ミズナラ林があり、四季の変化を楽しめる場がある。家族の協力も得た近隣の花見、買い物や、畑の手伝いなど外気を楽しむよう計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や力に合わせてお金を所持したり、使えるように支援している。人によっては、ホーム側で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも手紙、電話をする事ができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員、入居者が共有部分において不快な思いをしないように努め、居心地のよい生活空間を目指した工夫をしている。季節毎の装飾等の演出もある。	居間は日当たりが良く、温・湿度の管理がなされ、食事の場と共に、季節感のある装飾や自作品の展示などで居心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで仲良い同士がお話しをしたり、日光浴等でくつろいだり、又は居室で休まれたり、思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に慣れ親しんだ物の利用をお願いしている。清潔を心掛け、気持ちよく過ごして頂けるよう努めている。	居室は家族の協力を得て、個々の趣向に合わせた親しみある家財道具や思い出の写真・作品などを飾り、居心地のよい生活環境となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所に応じて、目印等を付け出来る限り、自立した生活が送れるよう工夫、支援している。		